

**平成29年度全国学力・学習状況調査結果について**

本年度 4 月に中学 3 年生を対象に悉皆の「全国学力・学習状況調査」が実施されました。  
以下本年度調査教科と目的です。

**調査教科：**国語 A（主として知識を問う調査），国語 B（主として活用を問う調査）  
数学 A（〃），数学 B（〃）  
各教科や生徒の生活習慣，学習習慣の実態調査

**調査目的：**義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

この調査結果は学力の一部が抽出されたものであり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえた上で、目的に沿って調査によって得られた課題を明らかにし、その改善を図っていくことが調査本来のねらいであると考えております。

学校としましては現在、学力向上に日々取り組んでおります。今回の調査結果を検証し、全国や大阪府の結果と比較検討しながら、さらなる学力向上の取り組みを図ってまいります。保護者の皆様には本校生徒の学力状況についてお知らせするとともに、今後とも学校と家庭で本校教育の推進について共に考えていく一つの資料としてご活用いただければと存じます。個人の結果は既に返却いたしております。

なお、吹田市においても今回実施した調査についての成果及び課題・問題点を市のホームページ上で公表いたしております。

**1. 調査結果の概要****国語 A**

- ① 全体的には大阪府の平均値を上回っている。
- ② 書く能力に関しては大阪府の平均値を上回り、全国値に迫っている。
- ③ 読む能力に関しては、大阪府の平均値を上回っている。

**【課題と解決に向けて】**

古文を苦手とする傾向が見受けられるので、学習量を増やす。  
できるだけ多くの文章に触れさせ、意味調べをさせながら語彙を増やす。  
自分の意見をまとめさせる時間をより多く設定する。

**国語 B**

- ① 全体的には大阪府の平均値を上回り全国値に迫っている。
- ② 書く能力に関しては、大阪府の平均値を上回っている。
- ③ 読む能力に関しても、大阪府の平均値を上回っている。
- ④ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する質問、言語についての知識理解が大阪府の平均値を下回っている。
- ⑤ 記述式になると、無回答（空白）が 15% になった問いが 2 問あったが、無回答率が全国値より低いことも多く、努力している様子が見受けられた。

**【課題と解決に向けて】**

朗読や、新聞活用で読むことに興味関心を持たせ、自分の意見を持たせる。  
語彙を増やして記述力をつけさせる。  
漢字、文法、表現技巧、古文などの知識を復習する。

**数学 A**

- ① 全体の平均正答率は全国値を上回っている。
- ② 学習指導要領における 4 つの領域のうち、「数と式」「図形」「関数」が平均とほとんど変わらなかったのに対し、「資料の活用」は全国値を大きく上回った。
- ③ 設問集計結果を見ると、「14(1)反復横とびの記録の範囲を求める」は平均正答率を大きく上回った。残りについても平均正答率とほとんど変わらないので、領域によって習熟度に大きく偏りがあることは考えにくい。

- ④ 正答数分布グラフの結果を見ると、平均正答数は24問であるが、全体的に見ると20問以上正解している生徒がほとんどである。

#### 【課題と解決に向けて】

数学的な技能を問われる問題に対しての理解は、全体的に高い結果となった。しかし、数学の基礎的・基本的な知識は比較的乏しい。この結果から、達成感を得られるような問題は意欲的に学習することが出来るが、知識を記憶することに関心が向かない傾向があると考えられる。それが、課題であり、今後の解決に向けて、単元の導入をする際に日常生活に関わる内容と結びつけて知識につなげることを意識づける必要がある。

### 数学 B

- ① 全体の平均正答率は大阪府値を上回り、全国値に迫っている。
- ② 設問集計結果を見ると、「5（2）根拠となる値として適切なものを選ぶ」という問題が平均正答率と比べて大きく下回った。
- ③ 正答数分布グラフの結果を見ると、平均正答数は7問であるが、生徒の分布は8、9問に集中している。

#### 【課題と解決に向けて】

問われたことを自身の言葉で書き表すことや立式することを苦手とする生徒が多く、この結果は今回の調査だけではない課題だととらえている。授業の問いかけに対し、1つの答えしかないクローズクエスションではなく、様々な解答や考えが認められる質問を投げかけて発言させることや、書かせることを工夫する必要がある。

### 生徒質問

この生徒質問は、日頃の子どもの生活習慣や学習習慣について、さまざまな質問からその実態を探るとともに、課題を見つけ、今後の指導に活かしていこうとするものです。本校生徒の特徴的なものをいくつか紹介します。

#### 【学校に対して】

- 「学校に行くのが楽しいと思いますか」「学校で友達に会うのが楽しいと思いますか」は高い値を示しています。

#### 【自分自身に関すること】

- 「自分には、よいところがあると思いますか」は全国値を下回っています。

#### 【家庭での過ごし方】

- 「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く）」は、4時間以上の使用が全国値を上回っています。  
全国比・府比ともかなり高い
- 「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」についても、全国値を上回っています。
- 「学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしていますか」という質問項目は、全国値よりも高いです。

#### 【読書・家庭学習習慣】

- 「学校図書館や地域の図書館をどのくらい利用しますか。」「新聞を読んでいますか。」「読書は好きですか。」は全国値を大きく下回っています。
- 「学校以外で普段1日にどのくらい勉強していますか。」は3時間以上が全国値を下回っています。
- 「週末学校以外で普段1日にどのくらい勉強していますか。」は2時間以上が全国値を下回っています。
- 「家で学校の予習をしていますか。」「家で学校の復習をしていますか。」「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」は、全国値を下回っています。

#### 【地域とのつながり】

- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」は、全国値を下回っています。

## 2. 今後の取り組み

ここ数年本校に於いて調査結果が示す学力は向上をしております。しかし、上記の通り生徒自身の自己肯定感や学習習慣の大きな向上は、図れていない現状もあります。本来、学力とは単にテストに表れる点数を指すものではなく、めまぐるしく変動していく社会の中で子どもたちが将来幸せに生きていくための力をことを指しています。子どもたちが成長し、将来社会の中で生き抜いてくための総合的な力を、学力として今後も育成していきたいと考えております。ご指導、ご協力のほど、何とぞ宜しくお願いいたします。